

Ⅲ 結果の概要

今回の調査結果の概要は次のようになる。なお、「増加」「減少」の記載については、前回の調査との比較、「増加傾向」「減少傾向」の記載については、4回の調査を通した経年変化を表している。また、有意差があるものについては、「(*)」を付けている。

1 児童・生徒編＜生活様式と子どもたちの適応感＞

(1) 家庭での生活

①起床・就寝 (P. 12)

- ・小学生の9割強が7時までに起床、11時までに就寝
- ・小学生、中学生ともに、早寝・早起きが増加傾向(*)

②朝食・夕食 (P. 13～)

- ・「時間がない」という理由で朝食を食べない子が増加傾向(*)
- ・夕食は、「家族全員で食べる」が増加

③手伝い (P. 15～)

- ・手伝いをする子は、小学生で9割強、中学生で8割強
- ・小学生、中学生ともに、「食事の用意、後片付け」「そうじ」「ゴミだし」「妹・弟の世話」が増加傾向(*)

④家庭学習 (P. 17)

- ・小学生、中学生ともに、「学校の宿題」が中心。中学生は、「テスト勉強」も
- ・小学生、中学生ともに、「学校の宿題」が増加傾向(*)
- ・中学生は、「受験や塾の勉強」が増加

⑤家で注意されること (P. 18)

- ・小学生では、「身のまわりの片付け」が最も高く、次いで「勉強のこと」。中学生は、その逆になっている
- ・小学生、中学生ともに、「勉強のこと」が増加
- ・中学生は、「友だちとのつきあい方」が増加傾向(*)
- ・全般的に小学生の方が注意されている

⑥家の人との会話 (P. 19)

- ・学校のできごとを家の人に「話す」子は、小学生が9割強、中学生が9割弱
- ・小学生、中学生ともに、「話さない」が減少

⑦家の人との相互理解 (P. 20)

- ・小学生、中学生ともに、「話したくない」が減少し、「理解してくれる」「話を真剣に聞く」「家族を尊敬する」が増加
- ・中学生は、相互理解が高まりつつあるとともに、干渉されている項目が増加傾向(*)

(2) 学校での生活

①教科の好き嫌い (P. 21～)

- ・好きな教科については、小学生、中学生ともに実技系、中学生では理数系も小学生では「理科」「道徳」、中学生では「保健体育」「音楽」「理科」「数学」「英語」「社会」「総合的な学習の時間」が増加

②行事の楽しさ (P. 23～)

- ・小学生は、「遠足は楽しい」が最も高く9割強
- ・中学生は、「宿泊行事は楽しい」が最も高く8割強
- ・全体的に「楽しい」が増加もしくは横ばいの傾向^(*)

③部活動への参加状況と要望 (中学生のみ) (P. 25～)

- ・加入率は男子が8割弱、女子が8割強、緩やかに減少
- ・積極的に参加している生徒が増加傾向^(*)
- ・土日の活動が増加傾向^(*)
- ・部活動に対する「不満」は、減少傾向^(*)

④教師への要望 (P. 29～)

- ・してほしいことでは、小学生、中学生ともに、「勉強をおもしろく教える」が最も高い
- ・やめてほしいことで最も高いのは、小学生では「宿題を多く出す」、中学生では「えこひいきをする」
- ・「してほしいこと」でも「やめてほしいこと」でも「特にない」が増加傾向^(*)

(3) 地域での生活

①生活体験 (P. 31～)

- ・全体的に、生活体験は減少傾向にあり、特に自然体験的なことは減少傾向が強い^(*)
- ・パソコン、携帯電話・スマートフォンの使用は、顕著に増加

②地域との関わり (P. 33)

- ・小学生、中学生ともに、「近所の人とあいさつする」が約9割
- ・近所の人から注意されることは、減少傾向であり^(*)、小学生で3割程度、中学生で2割程度

③地域での活動 (P. 34)

- ・小学生、中学生ともに、最も高いのが「近所の祭りや盆踊りなどへの参加」
- ・小学生、中学生ともに、「市の行事への参加」が増加傾向^(*)
- ・小学生、中学生ともに、「募金活動への協力」が減少

④地域での施設利用 (P. 35)

- ・小学生、中学生ともに、公園を多く利用。小学生で9割弱、中学生で8割強
- ・中学生は、全体的に利用が増加

⑤地域への愛着 (P. 36)

- ・「今住んでいるところ・綾瀬市・日本が好き」全て増加傾向^(*)

(4) 友だちとの関わりなど

①遊びの人数 (P. 37)

- ・小学生、中学生ともに、「3～4人」が最も多く、中学生では、「1人」も多い
- ・小学生、中学生ともに、「1人」「1～2人」が減少し、「5人以上」が増加傾向^(*)

②帰宅後の活動内容 (P. 38～)

- ・小学生、中学生ともに、「テレビやビデオを見る」が最も高い
- ・小学生の過ごし方は、室内外多岐にわたり、中学生では、室内が多い
- ・小学生、中学生ともに、「ゲーム機でゲームをする」「インターネットをする」「音楽鑑賞」「携帯などでメール」が増加傾向^(*)
「マンガや本を読む」「散歩や買い物」は減少傾向^(*)
- ・中学生では、「スポーツをする」も増加傾向^(*)

③仲の良い友だち (P. 40～)

- ・小学生、中学生ともに、「6人以上いる」が約7割
- ・小学生では、「学校が終わった後、一緒に遊ぶ」が最も多く、中学生では、「学校が休みの日に一緒に遊ぶ」が最も多い
- ・中学生では、「悩みを相談」「将来のことを話す」「社会のことを話す」が増加傾向^(*)

④学習塾 (P. 42～)

- ・通塾では、小学生は約3割となり減少、中学生は約5割となり、増加傾向にあり^(*)、過去最高
- ・小学生、中学生ともに、「週に2、3回」が最も多い
- ・学習塾からの帰宅時刻は、中学生で「10時すぎ」が増加傾向^(*)

(5) 価値観と将来展望

①福祉に関する価値観 (P. 46)

- ・「親の老後は自分で見る」は、小学生で約9割、中学生で約8割
- ・小学生、中学生ともに、「道に迷った老人に声をかける」「目の不自由な人に声をかける」は、第1次から第3次調査にかけて減少していたが、今回は増加

②環境問題に対する意識 (P. 47～)

- ・中学生は、環境問題に対して広く関心を持っている
- ・小学生では「大気汚染」「騒音問題」、中学生では、「大気汚染」が増加傾向^(*)
- ・実践していることは、小学生、中学生ともに、すべての項目において増加傾向^(*)

③染髪・ピアス等への価値観 (P. 49～)

- ・「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」は、小学生と中学生の違いが大きく、小学生は「そうしてはいけない(したくないと思わない)」「大人になったらしてもいい」「高校生になったらしてもいい」の順で、中学生は「高校生になったらしてもいい」「そうしてはいけない(したくないと思わない)」「大人になったらしてもいい」の順に多い
- ・「髪を染める」「ピアスをする」は、小学生、中学生ともに、「そうしてはいけない(したくないと思わない)」が減り、「大人になったらしてもいい」「高校生になったらしてもいい」が増加傾向^(*)
- ・「携帯電話・スマートフォンを持つ」は、小学生では「小学校高学年になったら持ってもいい」が増加傾向^(*)、中学生では「小学校高学年になったら」「中学生になったら」が増加傾向^(*)

④将来について（P. 51～）

- ・小学生、中学生ともに、「家庭や家族を大切にする人」が最も多く、9割程度であり、「社会につくす」が増加傾向^(*)
- ・小学生では、「家庭や家族を大切にする人」「趣味などを大切にする人」「仕事を生きがいにする人」も増加傾向であり、中学生では、全体的に増加傾向^(*)
- ・職業選択について、小学生は、社会貢献への意識が高い
- ・小学生、中学生ともに、男子の方が現実的であり、女子の方がやりがい・社会貢献を求める傾向がある

（6）ストレスと学校への適応

①いじめ（P. 53～）

- ・小学生、中学生ともに、「いじめを受けた」「いじめをした」「いじめを見た」が減少
- ・「いじめを止めた」ことについては、小学生が6割弱、中学生が3割強

②ストレス（P. 55）

- ・小学生では、「イライラする」「人や物にあたりたくなる」「何もする気になれない」「眠れない」「自分の性格がイヤになる」が、減少傾向^(*)
- ・中学生では、「人や物にあたりたくなる」が、減少

③学校への適応（P. 56～）

- ・「学校へ行きたくない」は、小学生、中学生ともに減少傾向^(*)
- ・学校へ行きたくない理由について、3割を超えるのが、小学生では、「体の調子が悪いとき」「行くのがめんどうなとき」「友だちとうまくいかないとき」「いやな授業があるとき」で、中学生では、「行くのがめんどうなとき」「体の調子が悪いとき」
- ・学校へ行きたくないとき、家の人にしてほしいことは、小学生、中学生ともに、「何もしないでほしい」が最も多い

④給食を残す理由（P. 58）

- ・「ほとんど残さない」が増加傾向^(*)
- ・小学生、中学生ともに、給食を残す一番の理由は「きれいな物があるから」
- ・中学生では、「きれいな物がある」「味が合わない」が減少し、「時間がたりない」が増加傾向^(*)

（7）携帯電話・スマートフォン（P. 59～）

- ・所持については、小学生、中学生ともに、増加傾向^(*)。特に、小学校4・5年生で大きく増加。どの学年も女子の方が多い
- ・持たない理由は、「まだ早い」「親が許してくれない」「お金がかかる」が上位だが、「お金がかかる」は、減少傾向^(*)
- ・よく使う機能は、小学生、中学生ともに、「メール」「通話」「カメラ」が多く、ブログ・SNS等は、増加傾向、^(*)中学生では、「カメラ」「ゲーム」も増加傾向^(*)
- ・家庭でのルールでは、「個人情報をお教えしない」「出会い系サイトへのアクセス禁止」「ネットマナーを守る」が上位
- ・1日2時間半以上の操作は、小学生で1割強、中学生で3割強で、ともに増加傾向^(*)
- ・小学生では、「メール」「ブログ・SNS等」に悪口を書かれたり、いやがらせをされたりしたことが微増

2 保護者編く子どもに関する教育の考え方と学校教育への期待>

(1) 家庭における教育

①子どもに対する理解 (P. 63)

- ・子どもの悩みを知っている保護者は、3割程度であるが増加傾向^(*)
- ・それ以外の項目では、6割以上で、9割を超えるものもある

②子どもとの会話の内容 (P. 64～)

- ・子どもとよく話す保護者は9割以上。内容は「学校のこと」「友だちのこと」が上位
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「社会の出来事」「体や健康」については減少傾向^(*)

③しつけのようす (P. 66)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、ほとんどが「毎日朝食をとらせる」
- ・「勉強時間を守らせる」は、小学生の保護者で4割強、中学生の保護者で3割であり、割合は低いが、増加傾向^(*)

④土曜・日曜日の子どもの過ごし方 (P. 67～)

- ・小学生は「親子で過ごす」、中学生は「部活動をする」が最も多い
- ・小学生の1～3番目、中学生の2～4番目に多く入るのが、「親子で過ごす」「のんびり過ごす」「友だちと近くで遊ぶ」
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「塾・習い事・スポーツクラブ」「家で勉強」が増加傾向^(*)
- ・中学生は「部活動」が増加傾向^(*)

⑤進路に対する考え方 (P. 69)

- ・小学生、中学生の保護者ともに「公立学校」への進学希望、約8割
- ・中学生の保護者では、「公立学校」への進学希望が増加傾向^(*)

⑥進学に対する考え方 (P. 70)

- ・高校進学について、小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの学力にあった学校」が最も高く、約7割
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「自由にのびのびできる学校」への進学希望が減少傾向^(*)

⑦学習塾に対する考え方 (P. 71～)

- ・通塾は、小学生で減少し2割強、中学生で増加し5割強
- ・小学生、中学生の保護者ともに「学校の授業だけでは物足りない」「成績を上げるため」という理由が増加傾向^(*)
- ・中学生の保護者では、「受験に役立つ」「授業についていけない」が増加傾向^(*)、「子どもが希望」が減少傾向^(*)

⑧家庭教育で重視すること (P. 73)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「健康」「親子の対話」「家庭の温かい雰囲気」「個性尊重」の順で重視
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「家庭学習の充実」「生活目標を立てさせること」は順位が低いが、増加傾向^(*)

(2) 学校教育への満足と要望・期待

①学校教育に対する満足度 (P. 74～)

- ・全ての項目で「とても満足」「満足」が増加傾向^(*)
- ・中学生の保護者では、「教師間での方針の一致度」について、「とても満足」「満足」が増加しているものの、「満足していない」と「全く満足していない」を合わせた割合より下回っている

②学校への期待 (P. 76)

- ・「心の豊かさを育てる教育」が9割以上で最も高い
- ・「礼儀や作法等を身につける教育」「進学に役立つ学力のつく教育」が増加傾向^(*)

③教育の分担 (P. 77～)

- ・「学力」「集団生活のルール」は学校で、「生活習慣」「他人を思いやる心」は家庭で
- ・「人とのつきあい方」「身の安全の守り方」「他人を思いやる心」において、「おもに家庭で」が減少傾向^(*)、「おもに学校で」が増加傾向^(*)。学校に対する期待が増加

④進路指導に対する要望 (P. 80)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの学力に応じた指導」「合格の難易度などの詳しい情報の提供」が増加し傾向^(*)
- ・「子どもの希望で」や「希望校の情報提供」は、減少傾向^(*)

⑤部活動に対する期待 (P. 81)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「忍耐力が備わる」「集団生活の経験」が上位
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「友だちが増える」が減少傾向^(*)

(3) 地域における活動と愛着

①地域との関わり (P. 82～)

- ・ほとんどの活動で減少傾向^(*)
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「清掃や環境保護などの活動」「祭りへの参加」が多いが、減少傾向^(*)
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「町内会や子ども会の世話」「地域での子どもたちの指導や世話」「お年寄り等の世話」は、2割を下回る

②地域への愛着 (P. 84)

- ・「今住んでいる地域が好き」は5割程度、「綾瀬市が好き」は4割程度で増加傾向^(*)
- ・「綾瀬について自慢できる」は、3割程度

③子どもの地域活動への参加状況 (P. 85～)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもを地域活動へ参加させている」が減少傾向^(*)
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「時間の余裕がない」が増加傾向^(*)

(4) 教育に対する価値観と悩み

①教育問題に対する考え方 (P. 88～)

- ・「男子にも家事をしつける」が最も高いが、減少傾向^(*)
- ・「体験学習を取り入れた方がよい」は減少傾向にあったが、増加
- ・「学力別の指導」「長い時間学校で面倒をみる」「学習塾へ行かせるのは当然」は増加傾向^(*)
- ・「ゆとりのある教育をすべき」は著しく減少

②公教育に関する話題 (P. 90)

- ・「学校での性教育」の必要性が最も高く、次いで「地域の人が授業を手伝うこと」
- ・「小学校からのキャリア教育」は、割合は低いが、小学生、中学生の保護者ともに、増加

③子どもの教育に関する考え方と悩み (P. 91～)

- ・「子ども中心の毎日を送っている」「塾等にお金をかける」が増加傾向^(*)
- ・中学生の保護者の方が、小学生の保護者よりも、「塾等にお金をかける」考えが強い
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「しつけや教育について自身がある」が1.5割程度で、減少傾向^(*)
- ・「染髪」「ピアス」「化粧」を「してもいいと思う」について、「してはいけない」「大人になってから」が減少傾向^(*)、「高校生になってから」が増加傾向^(*)
- ・携帯電話・スマートフォンの所持は、「中学生から」が最も多く、「小学生から」「中学生から」が増加傾向^(*)
- ・「子どもについて悩みがある」割合は、増加傾向^(*)
- ・悩みの内容は、小学生、中学生の保護者ともに、「学習について」が最も高い。次いで、小学生の保護者では、「性格や行動」、中学生の保護者では「進路について」
- ・しつけで困ることは、小学生の保護者では、「しつけても効果があがらない」が増加傾向^(*)
- ・「自分の子どもはうまく育っている」と感じている保護者の割合が減少。
- ・子どもになってほしい人物像は、小学生、中学生の保護者ともに、最も多いのが「思いやりや優しさ」、次いで「自分の考えをもち行動する人」「迷惑をかけない」。中学生の保護者では、「信頼される人」が増加傾向^(*)

(5) 携帯電話・スマートフォン (P. 100～)

- ・所持については、小学生、中学生ともに、増加傾向^(*)。特に、小学校4・5年生で大きく増加。どの学年も女子の方が多い
- ・持たせない理由は、「まだ早い」「犯罪に巻き込まれる」が上位。「勉強がおろそかになる」が増加
- ・重視する機能は、「メール」「通話」の次に「GPS」が多い。「GPS」の重視は、小学生の保護者は、中学生の保護者の2倍
- ・家庭で決めているルールは、小学生の保護者では、半数以上の項目で減少。中学生の保護者では、「個人情報を与えない」「ネットのマナーを守る」「利用時間の制限」が増加
- ・「フィルタリング・サービスを知っている」保護者の割合が増加。「利用している」保護者の割合は、小学生、中学生の保護者ともに増加し、8割程度